
木の葉のワンコ娘

冬山 楽

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

木の葉のワンコ娘

【Nコード】

N9655Z

【作者名】

冬山 楽

【あらすじ】

犬塚家の次女が木の葉の里で頑張るお話し。

恋愛したりバトルしたりと大暴れ！！

シカマルに想いを寄せるブラコン姉さん、いざ参る！！

木の葉のワンコ娘（ストーリー、キャラ設定）

この小説は、原作沿い＋オリジナルの設定の夢小説です。

シカマル落ちです。

主人公以外の恋愛要素もあります。

最初はオリジナルから入り、原作は一部の中忍試験開始から始まります。

次は夢主 & オリキャラ紹介です！！（話が進むとキャラの追加や設定の追加があります）

主人公

「犬塚ミミ」

犬塚家の次女でキバの一つ上の姉。

家族を大切にしている。

母や姉、忍犬達も好きだが、一番はキバ。

キバ大好きな超がつくほどのブラコン。

明るくて優しい性格。（ただし、弟が傷つけられたりするとかなり怖い）

小さい子に好かれやすい。

愛犬（忍犬）は、赤丸と同じサイズの柴犬、『茶々丸』。

ネジ達の同期。

実は下ネタが苦手。

シカマルのことが好き。
戦闘スタイルは基本的にキバと同じ。

「水鳥シミズ」

ミミと同じチーム。

毒舌ドSな性格。

初対面だろうが年上だろうが容赦ない。

カノンを虐める（弄る）のが好き。

冷たいように見えるが、実は結構仲間思い。

ミミとカノン、ヤイバは、かけがえのない存在。

意外にも甘い物が好き。

戦闘スタイルは、水遁と毒を使う。

「火塚カノン」

ミミと同じチーム。

ヤイバ班のツッコミ役で苦勞人。

ミミのブラコンや、シミズの毒舌に振り回されたり、厄介事に巻き

込まれたりなど、不憫体質。

ヒナタに想いを寄せている。

リーとは仲の良い友達で良きライバル。

戦闘スタイルは、火遁と体術を得意とする。

「ヤイバ」

ミミ達の担当上忍。

寝ることが好きで、どの時間帯でもどの場所でも基本的に寝れる。

普段は温厚で、怒ることも少ないのだが、睡眠を邪魔されるとブチギれる。

カカシの後輩。

戦闘スタイルは、刀を武器として戦う。

実力は今の所不明…。

先程あげたように、ストーリーが進むと、キャラが増えることがあるので、増えたら新しくキャラ設定を追加するのでよろしくお願ひします！

それから、この小説は一応、一部で終わる予定です。

もし、二部の方も書いてという要望があった場合は、作るうかと考えています。

ですが基本的には一部設定のまま終了する予定です。

では次からお話しに入っていきます!!

第1話「犬塚家のお姉ちゃん」

火の国、木の葉隠れの里のとある家…

「お母さん！ハナ姉さん！」

バタバタと階段から降りてくる少女に二人はため息をつく。

「あんたの言いたいことは分かってるよ。アカデミーの卒業試験のことだろう？」

母のツメがそう言うと、少女はビシッ！と指をさす。

「そう！今日はアカデミーの卒業試験！！愛しのマイブラザーがついに下忍になる日だよ！！！」

「まだ卒業するとは決まってるじゃないでしょう」

「そんなことないよ！！キバは絶対受かるわ！！！」

そう言うと少女はムカつくくらいのだや顔を披露する。
そんな少女に芝犬が足元にスリスリとすりよってきた。

「キバがもうすぐ私と同じ下忍…あーっ楽しみ！！ねえ、茶々丸！！！」

「ワン！」

「ほら、いつまでもはしゃいでないでさっさと着替えてご飯食べなさい、ミミ」

「はい……！」

先程から騒がしいこの少女：彼女の名は犬塚 ミミ。

犬塚家の次女で、立派な下忍だ。

彼女の側にいる芝犬の名は茶々丸。

彼女の愛犬だ。

なぜ彼女がこんな朝っぱらから騒がしいのか：その原因は弟のキバがアカデミーの卒業試験を受ける日だからだ。

忍者アカデミー前

「キーーバ……！！！」

卒業生とその家族が集まる中、ミミは愛しの弟を見つけると素晴らしいスピードで弟に近づき、思いっきり抱き締める「

「うわっ！ミミ姉ちゃん！！」

「卒業おめでとー！！キバはやっぱりお姉ちゃんの自慢の弟だよ！」

キバの額につけられた木の葉のマークがついた額宛を見て嬉しそうに言う。

「あつたりまえだ！！俺もこれから姉ちゃんと同じ下忍だぜ！」

ミミに褒められ、ニカリと笑いながらキバは言う。

（ああああ！！可愛いキバ、ホントに可愛い…！！）

そんなキバにミミは内心暴走気味だった。（オイ

ピクリ…

「……………」

「姉ちゃん…?」

「キバ、後でお姉ちゃんと茶々丸達の散歩しようか」

「よっしやー！ー！！」

「あっちにお母さんとハナ姉さんがいるから行って卒業したって報

告してきなさい」

「おう！」

そう言ってキバはミニミが指さした方向へ走って行った。

「…ちとと」

キバを見送ったミニミはある人物の場所へ走って行く。

「アカデミー合格おめでとう、シカマル」

「…ああ」

父のシカクに言われ、少しきだるそうに返事するシカマル。
するじ…

「シカマルー！ー！」

「うおっ？！ー！」

シカマルの背中にタックルしてきたのは先程キバと一緒にいたミニミだ。

「シカマルもアカデミー卒業したんだね！おめでとー！！」

「み…ミミ？！」

自分にタツクルしてきた人物を見て驚くシカマル。

「やあ、ミミちゃん。相変わらず元気だね」

「シカマルのお父さん！こんにちは！！」

「…何しにきた…って、どうせキバのことだろ…」

「もちろん！！」

胸を張って何故か威張るように言うミミにシカマルはため息をつく。

「もー何ため息ついてんの！！幸せが逃げちゃうよ？」

「頭撫でんな」

ため息をつくシカマルの頭を撫でるとシカマルにその手を振り払われる。

そのやり取りを、シカクはニヤニヤしながら見ていた。

「ふふつ、私これからキバと茶々丸達の散歩に行く約束してるから！じゃあねシカマル！！」

そう言うと、ミミはその場を素早く去って行った。

去り際に『今行くよマイブラザー！！』と、叫んでいたミミにシカマルはまたため息をつく。

「嵐のように突然来たと思ったら嵐のように去って行ったな…たくつ、相変わらずめんどくせー奴だな…」

（キバもシカマルも無事アカデミーを合格…けど、まだ本当の意味で合格したわけじゃないからね…）

茶々丸を優しく撫でながらミミは目を細めた。

「まあ、キバとシカマルなら大丈夫だろうけどね！さーて、キバと赤丸と散歩に行こうか、茶々丸！」

「ワンワン！！」

そう言ってミミは元気よく飛び出して行った…。

第1話「犬塚家のお姉ちゃん」(後書き)

はい!!第1話目からグダグダです!!

こんな感じの連載をしていくので、こんなんでも良かったらお付き合い合
いください!!

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になるうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n9655z/>

木の葉のワンコ娘

2011年12月30日03時49分発行